

式 辞

春の陽射しとともに木々の息吹きを感じる今日のこの佳き日に、多数のご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立神戸北高等学校第四十五回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。本校教職員を代表して皆様に厚くお礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与しました百八十一名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様のお喜びも、いかばかりかとお察しいたします。

さて、卒業生の皆さんは、ここ数年、SDGsという言葉をよく聞くのではないかと思います。授業などで出てきたかも知れませんが、SDGsとは、国連が提唱している、2030年までに全世界が達成すべきとされている17の目標のことです。

17の目標の中には、「飢餓をゼロに」とか「質の高い教育をみんなに」といったものがあり、日本でも多くの企業などが目標達成に取り組んでいます。北高のような学校でも縁のないことなく、来年度には、このSDGsを念頭に置いた取組をしたいと考えているところです。

このSDGsのSは、英語のサステイナブル、「持続可能な」と訳されています。この意味するところは、「目先だけではない」ということです。自分たちの世代はもちろん、自分の子どもや孫の世代になっても「目標」であり続けられる（持続できる）目標という意味なのです。

この世界、この地球は、今の時代を生きる我々だけのものではなく、のちの世代に、より良い形で引き継がなければならないものである、という思想が込められています。そして、これを実行する原動力となるのが、若い皆さんなのです。皆さんは、正に、これからの時代を担う主体なのです。

もう一点、先ほど、「世界」や「地球」という言葉を使いましたが、これからの日本は、外国〓他の国々との関係をなくしては、存在し得ません。世界の国々を見れば、国境というものがどんどん低くなっている地域もあります。日本国内に目を向ければ、観光だけでなく、就労のために数多くの外国の人が日本にやって来ています。

日本の国、これからの日本社会が発展を続けていくためには、世界の国々と協調して進んでいくことが欠かせません。これからの時代を担う若い皆さんは、このことをしっかりと頭に置いて、今後、大学や職場で活躍をして欲しいと願っています。

いずれにしても、卒業生の皆さんが歩んで行く世界は、「激変」とも言える流れの中にあります。AIに代表される科学技術の進展には、日進月歩という言葉では表しきれないものがあります。「予測不可能」とさえ言われるこれからの社会を生きていく皆さんに、心から幸多かれと祈るばかりです。

卒業生の皆さんの殆どは、毎朝、唐櫃台駅から坂を登って北高に登校したと思います。

この「登り坂」について、去年4月以降に何度か話したことを覚えてくれているでしょうか。それは、「苦しい時こそ登り坂」という言葉です。

「登り坂」、つまり、「負荷」がかかっている時こそ向上している、山登りで、頂上という目標達成に近付いているごとく、上り調子になっているのだという意味です。

皆さんの進学先や就職先に向かう道中には、今度は登り坂はないかも知れません。しかし、どうか、心の中には「苦しい登り坂」を持って、つまり、楽な道ばかりを選ぶことなく、自分に負荷をかけて、自分自身の向上を目指して欲しいと思います。

次に、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとう
ございます。心からお祝い申し上げます。桜の花が
咲き誇る三年前の春、期待と不安で胸をいっぱい
して入学式を迎えられたお子様も、こんなに立派に
成長され、今まさに新しい社会に羽ばたこうとされ
ています。

教職員一同、保護者の皆様とともに、誠心誠意、
努力をして参りましたが、皆様の思いやご期待に添
うことができたかどうかはわかりません。

しかし、お子様方がこのように立派に成長され、
それぞれの道に巣立っていかうとされていること
をもって、ご容赦いただくとともに、引き続き神戸
北高校へのご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様、本日はご多
用中にも関わらずご臨席賜り、誠にありがとうございます
でした。これから、この前途有望な若者たちを
温かく見守り、励ましていただけたら幸いですご
ざいます。

以上、卒業生の皆さんの輝かしい前途に幸多から
んことを祈念し、式辞といたします。

令和二年二月二十八日

兵庫県立神戸北高等学校長

長澤 和弥